

## 上田市教育委員会 8月定例会会議録

### 1 日 時

平成22年8月23日(月)

午後2時29分から午後4時08分まで

### 2 場 所

上田市教育委員会(やぐら下庁舎) 2階会議室

### 3 出席者

#### 委 員

委 員 長	西田 不折
委員長職務代理者	金子 泰子
委 員	春原 秀一
委 員	城下 敦子
教 育 長	小山 壽一

#### 説 明 員

廣川教育参事、小市教育次長、小野塚教育総務課長、中村学校教育課長、浅野生涯学習課長、澤山人権同和教育政策幹、中部文化振興課長、細川体育課長、下村丸子地域教育事務所長、大久保真田地域教育事務所長補佐、掛川武石地域教育事務所長、倉島第一学校給食センター所長、足立中央公民館長、坪田上田図書館長、山崎城南公民館長、山崎西部公民館長

・あいさつ

<協議事項>

(1) 図書館条例の一部改正について

資料1により浅野生涯学習課長説明

質疑意見なし

全委員 了承

(2) 教育委員会組織規制の一部改正について

資料2により小野塚教育総務課長説明

質疑意見なし

全委員 了承

西田委員長

図書館の利用率、利用数等、実際の図書館の様子を知りたい。

坪田上田図書館長

利用率としては、貸出数と入館者数の2通りがある。数値的によく比較されるのは年間の貸出数である。21年度では、上田図書館が369,148冊の貸し出しで、昨年より5パーセント増えている。創造館が108,061冊で2パーセントの伸び。丸子金子図書館は98,373冊で2パーセントの伸び。情報ライブラリーは109,990冊で7パーセントの伸びである。真田公民館は、22,374冊で3パーセントの伸び。武石は新設で比較できないが、武石公民館の図書室が3,599冊。取り次ぎを行なっている塩田公民館は1,181冊、長野大学も取り次ぎを行っているが532冊となっている。

全体としては100万冊を超えて1,029,960冊となった。全体として昨年より5.9パーセント伸びている。

なお、入館数は、日によって違うが上田図書館が1日500人位。情報ライブラリーが600人位。創造館が200人位となっている。

西田委員長

全体的に伸びていると理解していいですね。

### (3) 平成21年度上田市教育行政に係る事務の点検及び評価について

資料3により小野塚教育総務課長説明

西田委員長

スポーツ振興計画については、今後の方針として22年度内に作成するということが、どんな進捗状況か。

細川体育課長

6月に第1回、先日第2回のスポーツ振興計画策定に向けての審議会を開催した。22年度中を目標に作成したい。

春原委員

3ページに懇話会委員の皆さんからの意見を挙げてもらってあるが、例年同じようなことが書かれている。「わかる授業とは、情報機器を活用した授業とイコールではない」という意見が昨年もあった。そういう誤解が委員や一般市民の中にあるといけないと感じている。

教職員が積極的に取り組む中で、情報機器をどう活用するか、教材研究をどうするかなど、いろいろな要素が上がってくる。私も懇話会委員の意見と同じように、わかる授業の実現、授業改善のためにどうすべきかを上田市として考える中で、情報機器の活用を方向付けることが必要だと思う。

わかる授業を目指して積極的に授業改善をしていく意欲や意識を、学校の先生方に持ってもらえるような支援をどうしていくかが一番の根本にある。その中で、情報機器とそれを利用して行くための時間的なものを考えていく必要がある。

今回の学力調査でも同じような傾向が出てきている。上田市は、どこにポイントを合わせ、教職員の意識改革をどう図り、実際の授業改革をどうしていくかが一番の課題である。情報教育、情報機器だけがわかる授業ではないということを納得してもらえるような方法が必要である。

中村学校教育課長

情報機器というのは一つのツールで、情報機器を使えば全て良いというわけではない。昨年そういう意見をいただき、今年も同じような意見をいただいている。板書だとか、授業の最初にどういう目的でやるかを周知するなど、授業単位で検討していきたい。

また、逆に、情報機器を活用するのは効果的だが、教職員が期待されているほど情報機器を活用できていないのではないかという意見もあった。

これらのことを踏まえて、平成22年度については、策定された教育支援プランの4つの柱を基に行っていく。目標管理制度の重点目標も同様だが、この教育支援プランを基に教育行政評価の評価項目を修正して取り組んでいく。

#### 春原委員

小中学校情報教育研究協議会の協議により、どう変わってきたのか。どのような成果がでたのか。

また、教育課程検討委員会での検討では、学校の意見をどう集約しているか。反対に検討委員会で話し合われたことを学校にどう伝えていくのか。4回という少ない回数だが、効果が上がるような検討委員会にすれば、現場も変わるのではないか。どういう状況かお話しいただきたい。

#### 中村学校教育課長

情報教育の協議会では、各学校の情報教育担当の先生に年2回集まってもらっている。情報機器に精通している教職員が協議会のメンバーになっている所もあれば、先生がいなくて教頭先生が出席している学校もあるので若干の差がある。

今年度は、緊急雇用創出事業費を使って、学校ICT支援員3名を新たに置いた。今まで学校のホームページがなかなか更新されていないということもあり、ICT支援員に入ってもらいホームページの作成や様々なソフトの使用ノウハウなどを支援してもらっており、改善がなされていると思う。

教育課程検討会については、開催回数もなかなか増やせず、昨年度は研修中心で終わってしまった。内容としては、英語教育を小学校の教員がどう行なったらいいかの講演会や、学力状況・学習状況・学習環境を検討してきた。22年度は、課題別にグループを分け、全国学力学習状況調査の結果も踏まえて、もう少し具体的なことをやっていきたいと考えている。

#### 城下委員

行政評価の流れと全体像が見えづらい。前年度の教育行政評価懇話会の資料も見たが、20年度に自己評価でCを付け、今後の方針が明確に出ているのに、今年度の報告書にはその項目が載っていなかった。評価する分野が広いのはわかるが、取り上げたり取り上げなかったりして、前年度と今年度がつながっていないのはいかなものか。

その年ごとに重点事業がコロコロ変わるのではなく、重点目標の柱を持ってもらい、毎年の反省や良い意見を踏まえて次の年に生かし、少しずつレベルアップしていくのが良い。趣旨にもあるように、教育行政の推進を図り住民への説明責任を果たすという意味からも、この資料をわかりやすくしてほしい。

また、耐震化のところでは、上田市のホームページも見たが、まだ平成21年3月時点のものが掲載されている。資料にあるとおりデータが出ているのであれば、こうしたものも更新していくべきである。

#### 小野塚教育総務課長

市民の目線からもそのとおりと思われ、大変反省させられる意見をいただいた。ただ、教育行政の事務は多岐に渡っているので、全てが評価できるかといえば無理な部分もある。その年々の重点項目として選んだものについての評価をしている。重点項目をどう選ぶかは事務局の裁量で判断しており、教育委員会全体の中では継続的にやっていく意識はあるが、個々の課題については毎年状況も変わってくるところもあり削除されてしまった部分もある。

継続性やPDCAサイクルを考えて改善していくという観点からは望ましくないが、それぞれの事業の進め方もあるので、毎年変わっていかざるを得ない部分もある。今回、教育支援プランもできたので、これに合わせて一貫性のある重点項目を設定していきたい。

また、現在、21年度の評価を出してもらっており、評価を受けて反映できるものは今年度すぐに取り組むが、予算の絡むものは23年度からの対応となる。

#### 金子委員

事業名が前年度から変わっているのはなぜか。

#### 中村学校教育課長

上田市では、目標管理制度として年度初めに各部局ごとの重点目標をつくっており、行政評価の事業名もその項目名としてきた。これまで、学校教育に関しては基本となるプランがなかったが、昨年12月に教育支援プランを策定したことから、教育支援プランの4本柱が平成22年度の重点目標の事業名になるので、今後は統一された事業名になる。

#### 金子委員

事業名の「魅力あるわかる楽しい授業づくり」というのが、中の評価項目と合っていない。ここの評価は、主に情報機器の活用の仕方にもみ焦点が当たっているので、懇話会委員の意見（授業に情報機器を活用することの他にも工夫が必要）もあるほどと思う。

今年度からは、教育支援プランにある重点項目の4つの柱に目標を合わせるということであるが、では、「情報機器の活用」はどの柱に合わせることになるのか。

#### 中村学校教育課長

教育支援プランの4つの重点目標は、学ぶ意欲を育む授業、きめ細やかな個に応じた指導、安全・安心な学校づくり、地域に信頼され、地域に開かれた学校づくりである。

「学ぶ意欲を育む授業」では、情報教育の支援を行う。「きめ細やかな個に応じた指導」については、不登校・特別支援教育関係の相談支援の充実、また、カウンセリングマインド研修などを行う。「安全・安心な学校づくり」は、教育総務課担当の学校耐震化の関係。「地域に信頼され、地域に開かれた学校づくり」は学校評価の関係、それをホームページに公表していきたい、また、浦里小のコミュニティスクールなど。

#### 金子委員

事業名の「魅力あるわかる楽しい授業づくり」は「学ぶ意欲を育む授業」の下位に位置付くと理解してよいか。さらに、「魅力あるわかる楽しい授業づくり」は「情報機器の活用」を一手段として取り組むというふうに、順を追って狭めていかないとズレが生じるので事業名を考えてもらいたい。次の「時代に即した教育改革の推進」「きめ細やかな支援の充実」も同じで、項目名が大きすぎる。もっと具体化した方が分かりやすいと感じる。

#### 春原委員

4ページ、委員から食育に関する意見がたくさん出ている。これからは、市民からも食育に対する意見がたくさん出てくるだろうから、食育の基本をきちんと押さえていることが市や学校の栄養士に必要である。

食育の基本は家庭であると考えます。しかし、学校も積極的に参加していかなければならない。学校の食育の特質を考えると、長い期間に、計画的に科学的に技術的にできること。上田市として、また、学校独自で行なうカリキュラムとして、より良いものをどうつくっていくか、内部的な仕事が大変である。家庭と学校の連携がとれるカリキュラムの調整をお願いしたい。

#### 金子委員

上田市教育行政評価懇話会委員からの意見のところだけが書き言葉の「だ、である体」となっている。その他は「です、ます体」で、謙譲語などの敬語も入っているが、これは意図的か。

#### 小野塚教育総務課長

特にそうした意識をしたわけではない。

金子委員

少し違和感があった。特に意見に対する考え方のところで「まいりました」などの謙譲語を使うと、上下関係が見えるようで変な感じがする。全体的に書き言葉に直す方法もある。

西田委員長

この評価の公表はホームページか。

小野塚教育総務課長

教育委員会の中で協議した後、議会に報告しなければならない。9月議会の総務文教委員会に報告してから、ホームページに掲載する。

春原委員

教育相談所の役割は大きく、素晴らしい成果を上げている。その一方で2度と行きたくないという人もいる。学校へ行かれず最後の思いで行く人もいるので、どういう職員体制でいくのか。アドバイスを与えるより、話しを聞いてあげて互いの信頼関係を作っていく相談所であってほしい。悩みをどう受け入れるか、また、学校と連絡を取っていかれるように、教育相談所を利用した保護者・子どもたちの意見を聞く機会も必要である。

中村学校教育課長

中には、保護者にとって耳の痛い話もしなければならないが、傾聴は大事にした。清明小から現在の場所に移って、相談者も増えたと聞いている。さらに相談に来ていただき、良い方向へいってもらえれば良いと考える。

西田委員長

事業名の中で教育相談所のことを取り上げるのはどうか。

春原委員

内容はこのままでいいが、相談所がより生きていくために、こんなことはどうかと考えたことを申し上げた。

西田委員長

事業評価については、文言を修正していただくことでよいか。

小山教育長

文言整理が難しい。取組方法のところは「こうします」と約束になっている。達成状況のところも「やってきました」となっている。委員のところだけ書き言葉になっている。敬語を使っているのは良くないが、どういう風にするのがいいのか整理する必要がある。今年のものから修正するのか、来年度からにするのか、合わせて日程的にも短く、できれば今年度の反応やアンケートを見て、来年度に修正をかけていくといった段階的にすることがよろしいかと思う。

西田委員長

それぞれの部署でつくられるのでご苦労な面もあるが、統一したものにしていくよう努力をお願いしたい。

全委員 了承

教育総務課長

先ほど、図書館利用状況についての質問があったが、「上田市の教育」の本年度版の原稿ができていますので、最新版として配付したい。(資料配付)

<報告事項>

**1 丸子図書館建設概要案について**

資料4により浅野生涯学習課長説明、坪田上田図書館長追加説明

西田委員長

総予算はどのくらいになるか。

浅野生涯学習課長

現在のところ5億5000万円の予定である。土地の取得料は含めていない建物だけの予算である。

全委員 了承

**2 城南公民館建設概要案について**

資料5により浅野生涯学習課長説明

西田委員長



今は非常に狭い所で民家と隣接していて、夜遅いと苦情がきたり、車をとめる場所がないので、近くの医者や駐車場に勝手にとめて怒られることもあるようだ。今後、スペースが広がるのは良いことだが、進入路については狭いままか。

浅野生涯学習課長

進入路は変わらない。

山寄城南公民館長

今の進入路も7～8メートルある。今回新たに、南小に行く道路に面して6メートルの通路が設けられ、抜けられるようになる。

西田委員長

公民館としての機能について、何か新たに特別盛り込んだものはあるか。

山寄城南公民館長

使い易さと管理し易さを考慮してつくっている。平面図にある2階部分の和室は歴史の資料倉庫にしたい。物を入れるためだけでなく、データベースにして地元の方たちが利用できるものにしたい。

西田委員長

この事業は、概算でどれ位を見込んでいるのか。

浅野生涯学習課長

実施計画上、5億6000万円を見込んでいる。

全委員 了承

### 3 子ども文化講座について

資料6により中部文化振興課長説明

質疑意見なし

### 4 山本鼎記念館小企画展について

資料7により中部文化振興課長説明

質疑意見なし

**5 上田市体育協会事務局のやぐら下庁舎への移転について**

資料 8 により細川体育課長説明

質疑意見なし

**6 古戦場ハーフマラソン大会及びともしびの里駅伝大会について**

資料 9 により細川体育課長説明

質疑意見なし

**7 行事共催等申請状況について**

資料 10 - 1 により小野塚教育総務課長説明

質疑意見なし

資料 10 - 2 により中村学校教育課長説明

質疑意見なし

資料 10 - 3 により浅野生涯学習課長説明

質疑意見なし

資料 10 - 4 により中部文化振興課長説明

質疑意見なし

資料 10 - 5 により細川体育課長説明

質疑意見なし

**8 豪雨等による災害状況について**

資料 11 により小野塚教育総務課長説明

西田委員長

教育委員会の管轄で、一般市民のお宅に損害を及ぼしたということはないか。損

害賠償の対象になるようなことはなかったか。

小野塚教育総務課長

大きくはないが、8月2日に清明小の体育館の側溝が溢れ、低くなっている所に民家があり土砂が流れ込んだ。

細川体育課長

7月24日の被害で駐車場内の車両3台というのは、公用車でなく利用者のものである。

西田委員長

このことについては、最終的にどう対処したのか。

細川体育課長

自然災害であるので、市の保険等では対応できないため、補償等はない。

西田委員長

駐車場の利用規則外ということか。

小野塚教育総務課長

予測できなかった倒木による被害ということで、市側に瑕疵があるものではない。

西田委員長

物的損害も、人的損害にも補償はないということでしょうか。

小野塚教育総務課長

はい。

全委員 了承

<その他>

資料中央公民館だより等により足立中央公民館長説明

質疑意見なし

西田委員長

閉会